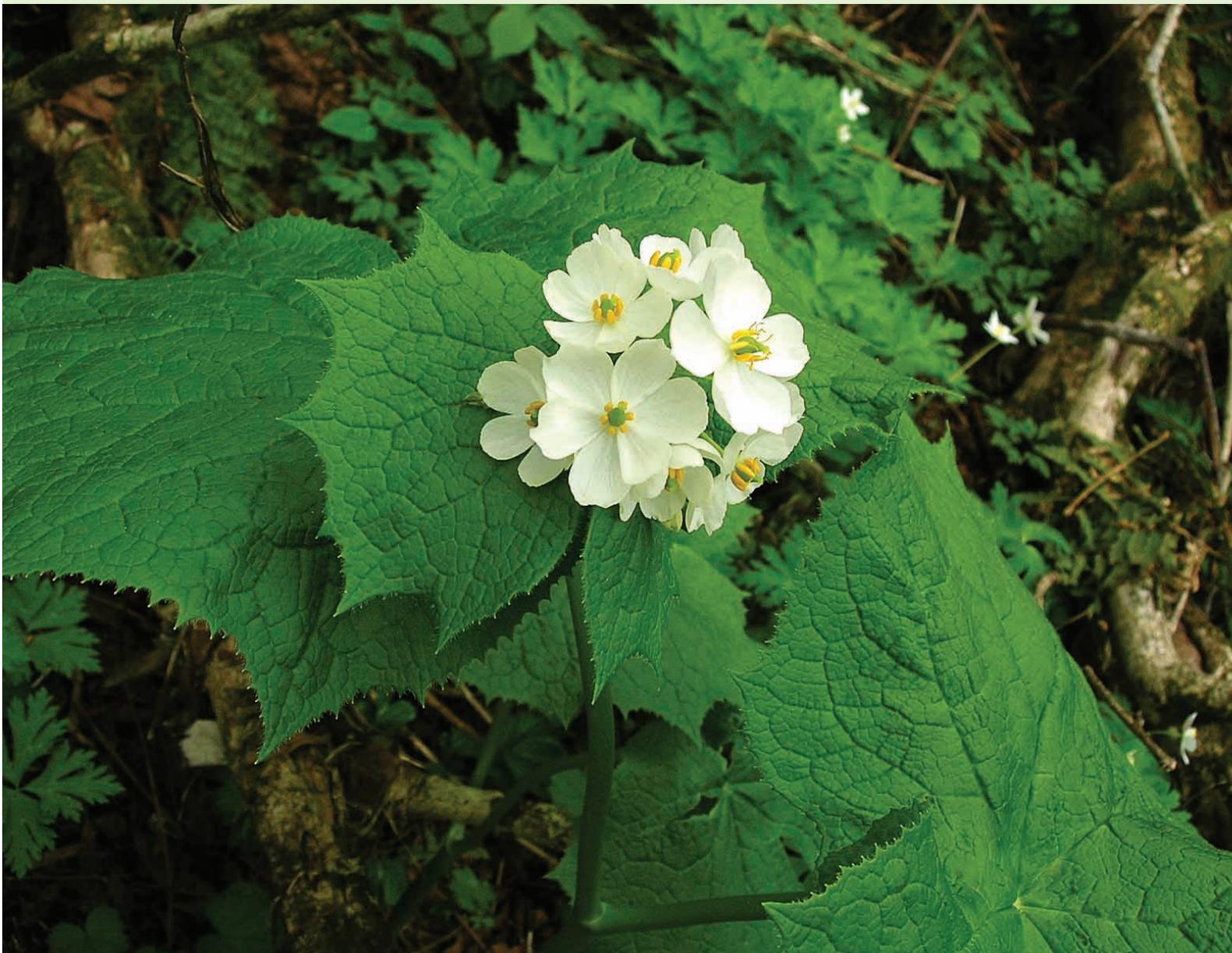


# 花と緑の銀行だより

168号 2008.7



サンカヨウ／有峰

目次	・花と緑の提言 .....	2	・この人あり .....	6
	・活動事例 .....	3	・技術講座 .....	6
	・緑づくりコーナー .....	4	・情報コーナー .....	7
	・花壇づくりは人づくり .....	5		



## 花と緑に期待されるもの

富山県自然保護協会 理事長（花と緑の銀行理事）  
舟崎 洋一

「花と緑の銀行」に関わり7年になりました。「富山県自然保護協会」は、昭和37年4月に立山有料道路建設の計画が具体化するにつれ、その是非をめぐる、中庸で、より公正な提言をする自然保護団体をめざして設立されました。

当初の2年間は、当時の佐藤助九郎社長のご好意で北日本新聞社内に事務所を置きました。

その間公害デパート富山県とまで酷評された昭和40年代の貴重な試練を経験しました。当時の新聞記事は「公害デパート富山県」と複合の表題をつけて大気汚染と植物被害、カドミ汚染田など、生々しい報道をしました。社会問題化した自然保護に、科学的な解明を目指した、当協会の創立の意図は若干薄れましたが、国立公園をはじめ県立公園の整備、県土保全事業には、些少なながらも貢献したものと、諸先輩の慧眼に畏敬しています。

ところで、“財団法人花と緑の銀行”はこの時代の後半、昭和48年にカドミ汚染田の効果的な復元利用の意図も込められて、現婦中町に活動拠点を創設された、と理解しています。

当時の時代背景からは、今日の想像を超える、先取的な構想で、当時の先達、先輩の英知に、深く感銘するものです。

花と緑を県内各地の隅々まで広める手段として一銀行システム一を取り入れたことで、導入当時は奇異に感じられましたが…今では、金融制度を凌ぐ運用に生育しました。

「花と緑の銀行」創業30有余年、県民にも広く知られるようになったことは、関わ

られた先達の皆様に、あらためて敬服と感謝の念を深くするものです。

「野に山に海に」は吉田知事時代のキャッチフレーズでした。

引き継いだ中田知事は、農林行政に明るく、この英明な構想が着実に進み、中沖知事時代に花が開き、緑に満ちたと言えます。

中央植物園をはじめ各地に植物公園施設が整備されました。

市町村や文教施設、各地域諸団体では、「花と緑の銀行」支店を通じて緑花美化資金や技能の貸し出しを受け、種苗、器材を借用し、街路、公園、庭園の美化、ひいては都市、住環境の飛躍的向上になることで「返済」とする制度は定着しつつあるようです。

今ふりかえると、昭和四十年代後半にオイルショックに見まわれ、この30数年間の時代は、地球、自然、人間社会の諸課題の深刻さに、これからの地球環境課題の行末の暗さを暗示させるものでした。

この様な時代にあって、「花と緑の銀行」に期待されるものは、限りなく多大です。

中核に位置する花と緑の銀行の「中央植物園」は、歴代園長をはじめ職員の皆さんの識見と努力もあって、学術レベルも高く、県外や近隣諸国の識者からは中央植物園の施設、運営、活動について、よく質問をうけます。

その評価は、とても高く、県民の自己評価を超えるものと言えます。

雲南省昆明植物研究所との共同研究など、海外との交流活動も含め、富山の「花と緑に」限りなく活動、活躍される銀行のますますの発展を願い、期待する一人です。

## 南砺花と緑のフェスティバルと絆

南砺花と緑のフェスティバル 実行委員長

高瀬 英明

### 経緯について

旧福野町では、花と緑の銀行福野支店の7地区による頭取・グリーンキーパー等が中心となって、「日本一の花と緑」を目指す県の期待に少しでも応えていこうと努力をしてまいりました。これからの花と緑の推進体制には地域に根ざした一段と幅の広い活動が必要となり、そして直接「花と緑」づくりを進める支店の役割が大きくなり、また、頭取・グリーンキーパーの活発で自主的な活動が要請されるようになってきました。

そのためには、本店や支店との連携のもと、花と緑を普及推進する者が一堂に会した組織体制を構成し、参画者の合意形成による集団活動を展開することが、花と緑の推進に効果的であると考えられるようになりました。

このようなことをふまえて、「福野花と緑の活動推進協議会」が平成5年5月に設立されました。年間行事の一環として、ふくの花と緑のフェスティバルが誕生したのです。

この行事は、旧福野町7地区の活動として配布される花苗を今一度、フェスティバルの会場展示用に使用して、全体の活動展開の試行錯誤により、年々全員による努力が実り、地域の方々、行政からも感心されるようになり今日に至りました。

平成5年に第1回ふくの花と緑のフェスティバルを開催し、会場は福野文化創造センターでした。平成9年に旧福野町の花である菊を専門とする福野町園芸植物園がオープンしたため、第5回からは会場を植物園に移して、大変に恵まれた環境での開催となりました。平成12年は、第8回（開町350周年記念事業）、平成14年は第10回（10周年記念事業）、平成17年の第13回南砺ふくの花と緑のフェスティバル2005サブテーマ「市民参加で花と緑の潤いを」で最後となりふくのの名前が消えることになりました。次年度からは、4町4村の合併に基づく事業へと見直していくこととなりました。今日まで長年継続出来たのも全体の強い絆があったからこそだと思います。

### 運営方法について

花と緑の銀行南砺支店の8支所（福光、福野、井波、城端、利賀、井口、平、上平）の頭取・グリーンキーパー等の実行委員会の組織で従来通りの内容で活動を展開することにしました。



コンテナガーデン風景

### 活動状況について

フェスティバルの開催に向けて準備が効率よく進むために、6つの担当部会（屋外展示、屋内展示、温室展示、イベント、即売、広報）を設置し、実行委員会の開催、部会長会議、各担当部会の会合等を数回行い担当者全員が積極的に行動され展示方法にも創意と工夫を凝らした仕上がりとなりました。会場展示作品の搬入搬出には、花と緑の関係者家族のボランティアのご協力もたいへんありがたいことです。今回も各新聞、ラジオ、テレビ等の報道により多数のご来場がありました。深く感謝を申し上げます。

### 活動内容について

屋外展示は、花のオブジェ（花の塔、花の門、水上プランター）、一般参加者や関係者が作成した寄せ植えのコンテナガーデン・ハンギングバスケットコンテスト、ミニ花壇展示等です。ハンギングバスケットは初めての取組みで60作品の展示方法に大変苦労しました。ミニ花壇は、保育園や幼稚園児のユニークな製作花壇、各支所、各地区、団体の花壇も会場を引き立て、来場者にも関心を高めました。

屋内展示には、手塩をかけた南砺の盆栽、山野草、洋蘭、昨年より種をまき天候に気をつかいながら育て展示したイングリッシュガーデン、花の美術館も野の花と絵手紙、菊に関する品物の「菊づくし展」、有名人の絵画等の組み合わせによる展示はどれも関心して見ていただき、展示担当者も持ち場において受け答えに接していただいたのもたいへん好評でした。

温室展示は、南砺のかがやきをテーマにしたの展示、各支所の旧町村の伝統的文化のイメージを表現した子供たちの作品が数多く準備され、福野田楽あんどんの武者絵、福光の紙風船、井口の椿にまつわる展示品、城端の曳山祭り、井波の彫刻、利賀のまんだら花壇等の素晴らしい会場となり、親子・家族連れが熱心に見ていただきました。

他には、地域イベントとして南砺市内5団体によるよさこいやスタンプラリー、ビンゴ大会、花苗即売会、飲食特産品コーナー、体験コーナー（ボトルフラワー、押し花、ハンギングバスケット）、花壇教室等、盛りだくさんの内容により、たいへん楽しく過ごしていただけたかと思います。

今後も南砺花と緑のフェスティバルは市民や花と緑の関係者の絆を強調し命の大切さ伝え、花と緑の輪で地球温暖化の抑制に貢献するため全員で努力していきたいと思ひます。



幼稚園児童製作花壇風景

# 富山市内におけるアメリカシロヒトリの発生状況

日本樹木医会富山県支部 樹木医  
西村正史

今年も、街路樹や庭木にアメリカシロヒトリの被害が目立つ季節になりました。今回は富山市内で実施されたフェロモントラップによる成虫捕獲数の調査結果に基づいて、成虫の発生時期、被害の発生時期、毎年の発生量などを解析した結果をお知らせします。

なお、この調査は富山市公園緑地課により実施されたものです。

## 成虫の発生時期

図-1は、フェロモントラップに捕獲された成虫数をトラップ1日当たりの成虫数に換算した値を示したものです。この図から1年に2回発生することがおわかりかと思えます。また、越冬した世代（第2世代）よりも夏の世代（第1世代）の発生量の方が多いいくもわかります。

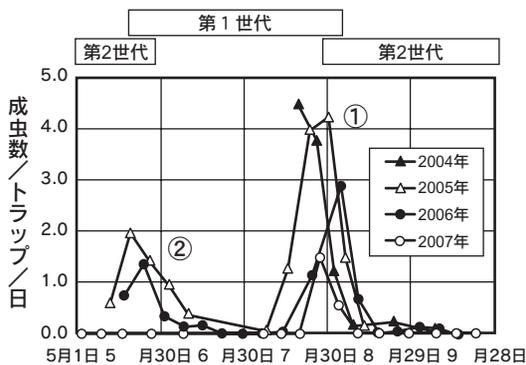


図-1 フェロモントラップで捕獲された成虫数の季節的变化

## 有効な防除対策の1つである巣網の除去時期

この害虫の防除は巣網を除去するのが最も簡単で確実な方法ですが、被害に気がついた時には被害がすでに蔓延しており、薬剤にたよらざるをえない状況になることが多いようです。ところで、巣網の中で大半の時間を過ごしている3齢幼虫までの時期は成虫の発生最盛期の日から10℃以上の温度を積算して

いった値が300を超えた日までであると言われています。この成果を利用して富山市内におけるこの害虫の3齢幼虫の時期を推定したのが表-1です。ばらつきはありますが、この表から第1世代では5月25日頃から6月25日ころまで、第2世代では7月30日頃から8月15日頃までが目安になるかと思えます。この時期に被害を受けやすい街路樹や庭木を観察し、巣網があれば高枝バサミ等で除去してください。

表-1 巣網の撤去時期

世代	年	捕獲数のピーク		3齢になる平均日	
		月日	月日	月日	月日
第1世代	2005	5月24日	~	6月22日	
	2006	5月29日	~	6月26日	
	2007	—		—	
第2世代	2004	7月23日	~	8月08日	
	2005	7月27日	~	8月13日	
	2006	8月07日	~	8月23日	
	2007	7月31日	~	8月15日	

## 発生量の年毎の変化

図-1の発生時期におけるピーク時の成虫数を経時的に示したのが図-2です。この図から2004年以降2007年まで減少傾向にあることがわかるかと思えます。この害虫は突発的に大発生することはないので、今年の被害は少ないものと思われます。

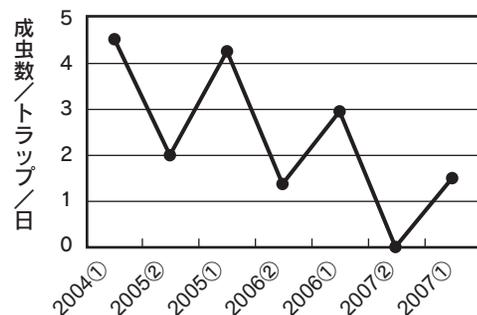


図-2 個体数の経時的変化

# 花壇づくりは人づくり

野菊の会会長 河原美耶子

## 1 松沢地区の概況と会の立ち上げ

富山県の西端、石川県との県境に位置する小矢部市の中心であるクロスランドの建設されている地元、美しい自然と砺波平野の散居村が見渡せる118mのタワー塔のある風光明媚な地域です。松沢地区は現在世帯数が869戸、人口2842名で高齢者数は680人で高齢者比率は24%となっています。

本会は、少子高齢化の時代を迎え、明るく住みよい社会と松沢地区住民が明るく豊かに、そして健やかに安心、安全に暮らせる地域づくりの実現を目指して立ち上げた女性だけのグループです。当初はまだまだ閉鎖的で女性蔑視の地域でした。女性の家庭のひきこもりも多く、公民館を心の寄り処となる様に拠点作りをし、VTの会を結成し、会の名前は道端の雑草の様に踏まれても踏まれても立ち上がる野菊の様に活動していくよう「野菊の会」と名づけました。

◎会発足 平成4年9月

◎会の目的と主旨

- 1) 高齢化社会に対応した地域VT活動（福祉事業）
- 2) 地域に明るい潤滑油的VT活動（交流事業）
- 3) 地域の美化促進VT活動（環境美化事業）
- 4) 会員相互の意識の向上を計る

（男女共同参画事業）

以上の4本柱の基に松沢地区公民館を心の拠点として、一人でも多くの参加交流が出来るようお願い、仲間作りの輪を広げる様に地域の皆さんと関わってきました。当初35名で立ち上げ現在では主旨に賛同する男性も13名余り加わり50名程のグループとなりました。

◎年会費 2000円

◎平成5年より「にしんのタワー漬」考案販売、会の運営費にあてる。

## 2 環境美化事業内容

当初公民館周辺の除草を松寿会（老人会）の皆さんと交流を兼ねながら行って行っていました。平成5年に小矢部市の中心地域松沢に新しく小矢部市の名所クロスランドが建設され、メルヘンの町、クロスランドへと県内外から人々が訪れるようになりました。当時沿道周辺は整備されておらず雑草地でイメージもよくありませんでした。2年間程この様な状態を見ていたが、見づらく、私は地区自治振興会の花壇作りをしてはどうかと声を掛けると、「あそこは、松沢地区の地面ではない。市が買い上げた土地であるから必要ない」と一



蹴され、今の言葉で「そんなの関係ない」まさに島国根性です。市内の人々は分かって、市外から訪れる方々にはそ



の様な事情は分かるはずがなく、雑草と空きカンの捨て場所でイメージも最悪。私たちは環境美化の一環として、花壇作りをしようと市行政と話し合い許可を得て、土の入れ替えから始めました。最初は会員が球根を持ち寄り、その後四季折々の植栽、除草を会員が互いに協力し、時には家族の協力を得、続け、花は園芸高校より購入、労力も大変で校長先生と話し合い、生徒と地域の人との課外授業と交流をしましよと持ちかけ、3年間協力を戴きました。平成7年から4年の歳月をかけ平成11年に400mの道路沿い650㎡の花壇が女性だけのグループで、忍耐と根性だけで作り上げた花壇です。補助も助成もないVT団体で資金の捻出も大変でした。「にしんのタワー漬」の売り上げ、新聞チラシの「コメリー緑資金」、公益信託の「社会福祉基金等に応募した資金」等を使いました。平成10年に初めて花と緑のB・K主催のグリーンキーパーの資金認定を受けその秋より球根、プラグ苗等の支給を戴き、育苗栽培に取り組み、毎年G・Kの育成を続け、現在は6000ポット程の育苗で資金の軽減を計り、地域の公民館、公共事業にも提供し大変よろこばれています。努力が認められ、振興会、各種団体長と男性の会員も主旨に賛同し会に加入、男女参画共生事業も達成する又G・Kにも男性が参加する様になりました。現在は野菊の会員と花と緑の会員で70余名のグループとなりました。

## 3 今後の抱負

市行政より花づくりクオリティアップ推進団体として認められ活動する様になった現在、G・Kのワンランクアップにも参加させ会員の老齡化対策として、又労力軽減を計る為、宿根草、花木等の植込部分を増やすと共に、木片チップの使用も毎年図っていきたいと思います。訪れる方達に「癒し、潤い、感動」の空間作りにデザイン性も花と緑に満ちた風景に違和感のない花壇作りに心掛け花壇を媒体として潤いとやすらぎを地域の人々に与え、VTが苦痛とならない自分の空いた時間に参加し、楽しく語り合う道端となるよう、又新しい挑戦や挫折も納得出来る様にと願って居ります。活動で知り合った仲間はかけがえのないもの、地域の連携を図りながら会員の輪を広げたいと思います。

## よりよい地域環境をいつまでも

黒部市石田地区 飛驒 幸雄 さん



黒部市石田浜、その海岸道路沿いに全長900メートルにも及ぶフラワーロードがあります。この海岸花壇を管理しているのが「石田海岸花壇推進委員会」です。黒部市石田地区のグリーンキーパーである飛驒幸雄さんは、この会の事務局長でもあります。

海岸花壇の近くに住んでいる飛驒さんは、グリーンキーパー就任以前から、これらの花壇とその管理の難しさを見てきました。退職してからも何か地域社会に貢献できたらとの思いから、グリーンキーパーを始めて今年で7年目。今では、地域の緑花活動や美化活動の先頭に立って尽力しています。

海岸沿いの花壇にとって、一番の敵は潮風。石田浜の海岸花壇も、例にもれず、海からの強風や塩害に苦しめられてきました。そこで、塩害の影響を受けにくいシャリンバイや浜菊の植栽を積極的に行うといった工夫をするなど、努力を日々重ねています。また、付近のゴミ拾いを行う海岸清掃にも取り組むなど、緑花活動にとどまらず、地

域の環境美化にも力を入れています。その甲斐あって、900メートルにもおよぶ海岸道路が県内でも有数のフラワーロードとなり、今では地元の人だけでなく、県内外から訪れる観光客の目を楽しませています。

このような長年の熱心な活動が認められ、石田海岸花壇推進委員会は、平成19年には環境部門において県功労賞を受賞しました。しかし、まだまだこれからだと飛驒さんは言います。今までの活動を続けていくことはもちろん、これからは、春のスイセンに始まり、夏の松葉菊やシャリンバイ、フヨウ、そして秋にはコスモスというように、一年を通じて様々な花を楽しむことができる花壇をつくっていくことを目標に、地域で力を合わせて活動していきたいそうです。

厳しい環境の中で、花壇を維持、管理していくことは容易なことではありません。それでも、フラワーロードをはじめとした美しい石田浜海岸を後世に残していくために、今日も飛驒さんは地域ぐるみで頑張っています。今後とも、地域の方々と一緒に頑張って、ますますご活躍されることを期待しています。

(黒部市農林整備課 記)

### 〈技術講座〉

## 富山で育つ宿根草② ネペタ・ファッセニー

職藝学院

教授 渡邊美保子

ネペタ・ファッセニーは、イギリスでは、昔から花壇の縁取りとして植えられている代表的な宿根草です。別名はブルーキャットミントで、葉っぱをこすると甘いミント系の香りのするハーブとしても知られています。富山では、ウコンザクラの花が満開になる4月中旬、ラベンダーブルーの小花がぼつりぼつりと色づき、5月末ごろまで咲き続けます。

ひとつひとつの小花をじっくり眺めると、太陽の光によって透けて見えたり深みをましたりして紫水晶のような透明感があります。株全体では、淡い紫色の水彩絵の具を塗ったように見えます。華やかさはありませんが宿根草を組み合わせた庭づくりには欠かせない名脇役です。最大の特徴は、花が咲き終わったあとに切り戻すと、再び花茎が伸びて開花するので、なんだかお得な気分になる宿根草です。また花の咲いていない時でも、こんもりとした草姿は銀灰色に輝いてとても上品です。好む場所は、日当たりがよく風通しの良いところです。苗を植栽した年はそれほど大きくなりませ

んが、気をもむ必要はありません。ひと冬ごとに株が広がりますので、縁取りとして並べて植えるときは株が蒸れないようにするため最低50cmは間をあけるとよいでしょう。開花時の草丈は40～60cmぐらいです。風通しが悪いと株が蒸れ、葉が黒く枯れてくるため梅雨に入る前の6月初旬までに一度切り戻しをすると、8月ごろ再び花が咲きはじめます。相性の良い組み合わせは、銀灰色の葉をもつラムズイヤー、ラベンダー、セラスチュームなど、また、淡い紫色の花をよりいっそうひきたせる明るいレモン色の花が咲くルーなどがおすすめです。



中央植物園「香りの庭」4月中旬

## 7～9月の主な行事

開催機関および行事	開催時期	時間	対象等	定員	参加費等	内容・申込み
<b>中央植物園</b>	(月/日)		—			
ゲッカビジン観賞	7月開花日2日間	19:00～21:30	—		入園料(300円)	お盆の開園時間延長 (8/13～16、18:00まで 8/14(木)は開園)
水辺のコンサート 「夕べのバイオリン —野崎弘道ミニコンサート—」	8/16	16:00～17:00	—		入園料	ミニコンサート 「アンダルシアの花 —滝沢恵 フラメンコ舞踊—」 23日20:00～21:00
サマーナイトフェスタ とミニコンサート	8/23、24	19:00～21:30	—		入園料 (300円)	
私の植物写真展	6/20～7/16	9:00～17:00	—		入園料	講習会作品と公募作品展
食虫植物展	7/18～30	9:00～17:00	—		入園料	食虫植物の展示
夏休み企画 親子体験コーナー	7/18～8/31	9:00～17:00	—		入園料	顕微鏡観察、工作コー —設置
水生植物展	7/25～10/1	9:00～17:00	—		入園料	水生植物や富山の水草展示
スイレンフォト・ お絵かきコンテスト	8/29～9/10	9:00～17:00	—		入園料	スイレンの写真、お絵か き作品展示
フラワーデザイン展 富山2008	9/13～15	9:00～17:00	—		入園料	フラワーアレンジメント の展示
TOYAMA植物フォーラム 「水草の栽培と保全」	7/12	13:30～16:30	一般	70名	無 料	パネリストによる講演と 意見交換
水草を使った実験観察 「水草の形態」	7/27	13:30～16:00	一般	24名	無 料	顕微鏡による観察 要電話
講演会 「水草ピオトープの実際と問題点」	7/29	13:30～15:30	一般	50名	無 料	ピオトープづくりの指導 要電話
水草を使った実験観察 「光合成実験」	8/2	13:30～16:00	一般	24名	無 料	簡単な光合成の実験 要電話
オオオニバスに 乗ってみよう	8/9 8/16	10:00～12:00	年長児～小学生 (体重30kg未満)	各30名	入園料 (大人)	巨大な葉に試乗体験 要電話
フラワーアレンジ教室	9/13 9/14	11:00～12:00 13:30～14:30	一般	各30名	入園料 +実費	花を現代風に活ける 要電話
県民植物学講座③ 「野生動物の生態と植物—クマ、サル、シカとの関係」	9/21	13:30～15:30	一般	30名	無 料	動物問題を考える 要電話
観察会 「水草の名前を調べよう」	9/23	13:00～16:00	一般	20名	必要 (保険料)	野外での観察会 ハガキ、Fax、E-メールで
<b>富山県花総合センター</b>						
ランの展示	7/11～9/15	9:00～16:30			無料	カトレア、 オンシジューム等
県民緑花オープン講座は、前号に記載の通り実施しています。						
<b>県民公園頼成の森</b>						
花しょうぶ染め教室	7/6	9:30～15:00	親子 一般	30名	材料代 実 費	花しょうぶの葉や花びら を利用したオリジナルな 染布づくりを楽しむ
野鳥と昆虫の観察会	7/27	9:30～12:00	親子 一般	20名	無料	自然観察員の説明を聞き ながら、林内遊歩道沿い の樹木や水生植物園など で昆虫や野鳥を観察
木工手づくり教室	8/2・8/3	9:30～15:00	親子	120名	材料代 実 費	講師の指導を受け、自由 に木工作品を作り上げな がら、木とふれあい、木の 良さを体感し、手づくり の面白さを楽しむ

※要電話、要申込は1ヶ月前から裏表紙の連絡先に

表紙・裏表紙写真提供  
成瀬博行(元農業試験場長)

表 紙：サンカヨウ  
裏表紙：タチカメバソウ

本州、北海道(深山)に分布、開花期は5～7月  
本州、北海道に分布、溪谷の湿ったところに生える  
開花期は5～6月



タチカメバソウ／有峰

**花と緑の銀行だより 168号**

発行日 平成20年7月

編集発行 財団法人 花と緑の銀行

〒939-2713 富山県富山市婦中町上巒田42

TEL 076-466-2425

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/fgbank/>

**富山県中央植物園**

〒939-2713 富山県富山市婦中町上巒田42

TEL 076-466-4187

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org>

**富山県花総合センター**

〒939-1383 富山県砺波市高道46-3

TEL 0763-32-1187

FAX 0763-32-1219

ホームページアドレス <http://www.pref.toyama.jp/branches/1692/1692.htm>

**県民公園頼成の森**

〒939-1431 富山県砺波市頼成156

TEL 0763-37-1540

FAX 0763-37-1450

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/ranjyounomori/>



再生紙を使用しています。